

組立・設置段階	機械設備の使用事業場での機械設備製造者による組立・設置、又は機械設備の使用事業場での機械設備使用者の生産技術等による組立・設置の段階
調整・試運転段階	使用者の事業場で機械設備製造者が行う調整・試運転段階 機械設備の使用者が行う調整・試運転段階
使用段階	機械設備の運転操作に加え、設定替え、保全、故障修理、検査、清掃、補給等をする段階
解体・廃棄段階	使用者、廃棄業者等が機械設備を解体・廃棄する段階

表 4 : 合理的に予見可能な誤使用が起こり得る場合(JIS B 9700-1:2004 に基づく)

1	機械設備を使用中に、機能不良、事故又は故障が生じたときの人の反射的な挙動
2	集中力の欠如又は不注意（機械設備の故意の誤使用ではなく）から生じる人間の挙動
3	作業遂行中、“最小抵抗経路”※をとった結果として生じる挙動
4	どんな事態が起きても、機械設備を稼働させ続けようとするプレッシャー（機械設備を止めると後が面倒、などと考えることから発生する）から生じる挙動
5	特定の人（例えば、子供、障害者など、一般的な身体寸法の作業者と異なる行動をとる可能性のある者）

※ 最小抵抗経路とは“近道反応”、“省略行動”と言われるもので、「人の知覚が目前の物事をどのようにまとめるか」を明らかにする心理学(形態心理学)の分野での用語である。

この最小抵抗経路は、「把握されたパターンは、そのときに与えられている条件のもとで、全体的に最も単純で、最も秩序ある、最も良い形にまとまろうとする傾向を持つ」という法則で表現される。

要するに、楽をしよう(面倒なことはやりたくない、手を抜こう、早く済ませよう、など)と考えて、本来なすべき挙動・行動を取らないことに当たる。これが5種類挙げた挙動の中で最も多くかつ日常的に発生するものと思われる。